

大地震に屈しない

Special
Edition

未曾有の被害をもたらした東北地方太平洋沖地震。大地震を目の当たりにして、今私たちにできる対策は何なのか。東海地震に向けた備えを考えていく。

被災者に聞く 大地震

「地面に伏せても体勢を維持できなかった」。大地震を経験した山田義行さんに発災時の状況を聞いた。

まちが
一瞬でなくなつた

「あの恐ろしさは言葉にならないです」山田さんはうつむきながらつぶやいた。3月11日午後2時46分、東北地方を中心にマグニチュード(M)9.0の大地震が発生した。農業を営む山田さん。発災時は自宅で来客とテレビを見ていたその時だ。テレビと携帯電話から緊急地震速報が通知された。

「突然速報が流れたので驚きました。直後にカタカタと揺れ出したんです。妻は急いで外へ避難。私とお

Interview

山田義行さん
福島県双葉郡浪江町から本市へ避難してきた。



客さんは大した揺れではなかったのですが、揺れたな程度に思っていたんです。2波目がひどかった。家が凄まじい音を立てて左右に揺れ出しました。慌てて私も外へ避難しました。身を寄せ合っても立ってられない。地面にはいつくばっても態勢を維持できないほどの揺れでした。着の身着のまま車で避難。持ち出した物は、服のポケットに入っていた運転免許証とわずかな小銭だけでした」と当時の状況を話した。さらに、「途中、津波警報が何度も流れていました。しばらくすると津波がまちへ押し寄せてきたんです。私の家は山側にあ